## SI(ベンダー)依存症からの脱却 千趣会 が取り組むクラウドジャーニー

### 本日のアジェンダ

- 1. 会社概要
- 2. クラウドジャーニー
- 3. 今後のクラウド活用

### 自己紹介

## 情報システム部 システム管理チーム 池本 修幸 (いけもと のぶゆき)

- ■担当範囲『社内インフラの何でも屋』サーバ、ネットワーク(データ・音声)、セキュリティ・・・などなど。
- ■最近の仕事
  JFR社との協業による「Kcarat」ブランドショップ立ち上げ協力
  コールセンター次期システム検討
- ■趣味 趣味は仕事です!ではなく、お酒を飲むこと。 特にクラフトビールを好んで飲み、クラフトビールの普及の為に 「Beerfes®」へのボランティア参加なども。



### 本日のアジェンダ

- 1. 会社概要
- 2. クラウドジャーニー
- 3. 今後のクラウド活用

### 会社概要(2016年1月1日現在)

社名

本社

東京本社

代表者

設立年月日

資本金

上場証券取引所

従業員数(連結)

単元株式数

株主数

株式会社 千趣会

大阪市北区同心1-8-9

東京都品川区北品川5-9-11大崎MTビル12·13F

代表取締役社長 星野 裕幸

1955年11月9日

22,304百万円

東証一部 (コード:8165)

1,987名

100株

28,692名



大阪本社



ビジネスセンター



就任1年目



東京本社

「女性を幸せにする会社」「女性に笑顔を届ける会社」。これが、千趣会のビジョンでありテーマです。創業から

60年たった今も、一貫して女性に喜ばれる商品・サービスを開発し提供し続けています。

	質して文正に告ばれる同曲・ケーに対元の定法の元がているす。
1954年	千趣会の前身「味楽会」発足 こけし頒布会開始 ※このこけしを「こけし千体趣味蒐集の会」から仕入れることになり、 会の名称もその"千"と"趣"の文字から『千趣会』となりました。
1955年	株式会社千趣会 設立
1958年	料理カード付き雑誌「たべもの千趣」創刊(のちにクックに改称)
1976年	カタログ「ベルメゾン」を創刊
1984年	大阪証券取引所第二部上場
1988年	東京証券取引所第二部上場
1990年	東京·大阪証券取引所第一部上場
2000年	オンラインショッピングサイト「ベルメゾンネット」オープン
2007年	暮らす服ショップ一号店オープン
2008年	株式会社ディアーズ・ブレイン子会社化
2013年	株式会社千趣会チャイルドケア設立





2015年

創業60周年

株式会社プラネットワーク子会社化

### 企業ビジョン

ウーマン スマイル カンパニー

## senshukai

笑顔が積み重なって、 しあわせは生まれる。 ひとりひとりが笑顔になれば、 明日はもっと素敵になる。

私たちは、女性の毎日に 笑顔を届けることを通じて、 世の中をしあわせにしていく会社です。







### 事業紹介

#### その他事業 8億円

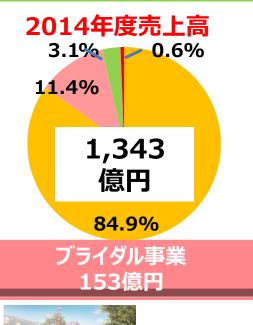


#### 法人事業 42億円





ウーマン スマイル カンパニー



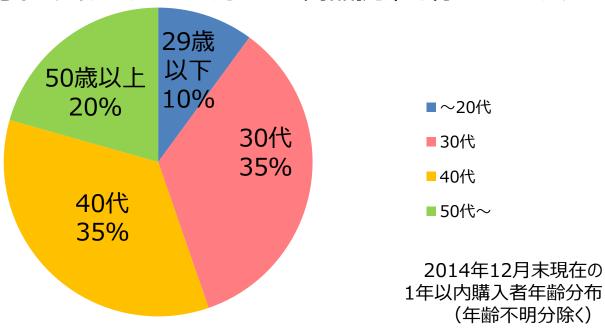




### メイン事業 通販事業 購入者層

#### ◆ 1年以内購入者の年代分布(女性)

女性の購入者の割合が92%です。 また年齢分布でも30代~40代が70%を占めています。 仕事・結婚・出産・育児などライフステージに応じての商品提案を行っています。



### 本日のアジェンダ

- 1. 会社概要
- 2. クラウドジャーニー
- 3. 今後のクラウド活用

#### ✓ 基本方針はクラウドファースト

現在、社内で稼働している多くのシステムはクラウドサービス上で稼働しています。 基本方針としては、資産は持たない。利用した分だけを支払う。 新たにシステムを構築する際には出来る限りクラウドを利用しています。

### ◆ クラウドファーストまでの道のり

クラウドサービスの利用は、2010年頃に遡ります。

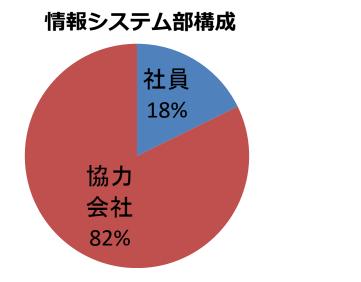
運用をアウトソーシングしているIBM社のクラウドサービス(MCCS)の利用に始まり、 2011年にはメールサーバをGoogleAppsへ移行。 その後も社内システムはクラウドサービスを前提に新規構築や保守切れ対応を進めてきました。

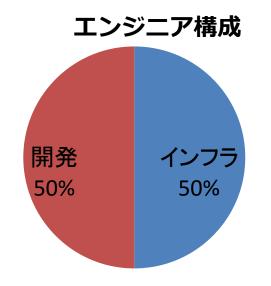
2013年にはAWS利用を開始し、パブリッククラウドとプライベートクラウドの両方を利用するハイブリッドな環境を併用しています。

◆ 千趣会の情報システム部について

千趣会の情報システム部は100名を超えるメンバーが在籍しておりますが、 社員が約2割でその他はお付き合いのあるベンダーからの常駐という形の構成となります。

エンジニアの内訳はインフラ系・開発系とほぼ半々の構成となっておりますがインフラに関してはアウトソース先のエンジニアが大半となっております。





#### 【第一のハードル】

AWSについて相談出来る人がいなかった

千趣会とAWSの出会いは2012年になりますが、 当時我々の周辺ではAWSという言葉は知っていても具体的になサービス内容や 今までのクラウドサービスと何が違うのかといった事を知っているシステム部員はいませんでした。

#### 【第二のハードル】

お付き合いのあるSIerもAWSを知らなかった

AWSに関する情報量は我々と大差なく、周囲にはAWSを導入した事があるという SIerはいませんでした。

#### ✓ ハードルを乗り越えるためのアプローチ

AWSの事を知りたくても周囲には有識者が居なかった為に、 私達は自分たちでトライ&エラーを行うというSIerに頼らない選択肢をとりました。

#### ①AWS窓口へのアプローチ

Webサイトより、AWS導入に関する相談を実施。 AWSの担当とコンタクトを取りサービスの概要について確認。

#### ②AWS研修プログラムの活用

『 Amazon Web Services 実践入門 1 』の有償トレーニングを受講し基礎を習得。 その後はWebサイトの情報や動画などでセルフトレーニング。

#### ③無料使用枠の活用

AWSの実際に契約し、無料使用枠を活用して研修プログラムで学んだ事の実践やその他のサービスを使って何が出来るかの確認。

✓ ハードルを乗り越える過程で見えてきた向き合い方

ハードルを越えるための試行錯誤は行いましたが、色々なサービスがありすぎて どこから手を付けていいのか正直分かり難いAWS。

まずはEC2・EBS・S3と今までオンプレミスで経験した事のある領域からトライ。 この頃から、今も私たちが行っているAWS利用の基本的な流れが出来てきました。

- ・分からない事はWEBサイトで調査
- ・実際に試してみる
- ・AWSの担当者&サポートに相談する
- また試してみる

という繰り返しを行いながら自分達の中にノウハウ吸収してきました。

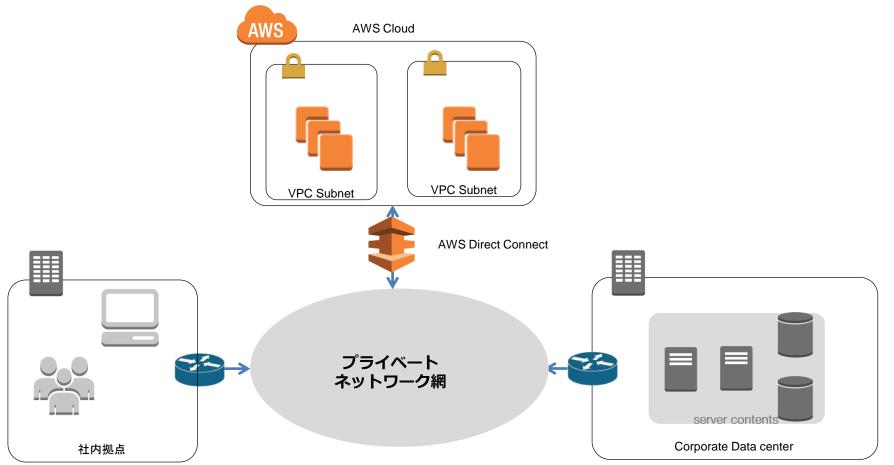
#### ❖ AWS活用の一つの道筋

トライ&エラーを行う事でノウハウを吸収してきた中で、 AWSを使う事で我々の課題である柔軟なリソース確保ができるようになるだろうという 確証が取れていた事もあり、DirectoConnectを契約して専用線接続を実施。

パブリッククラウドのAWSのリソースをDirectConnect + VPC接続で プライベート空間として利用する環境を構築。

更に、本番系とテスト系でVPCを分けるという環境を作る事で 将来的な本番システムの稼働を視野に入れた環境に。

### AWS接続図(導入当初)

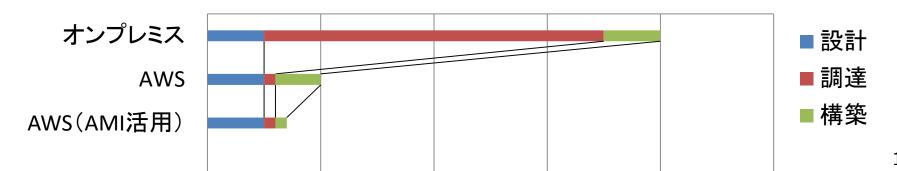


#### 

DirectConnect接続が出来たことで、社内システムの構築はAWSがメインの選択肢に。

特に、何かの検証を行いたい場合に必要となるテスト環境の構築については オンプレミスの時はサーバリソースの調達に一定の時間とコストが必要でしたが AWSの場合はコンソール作業で素早くリソース確保可能。

構築作業もAMIを使って工夫する事で工数削減ができ、 オンプレミスの場合とは比較にならないほどのスピードでのリソース確保が出来るようになりました。



#### 

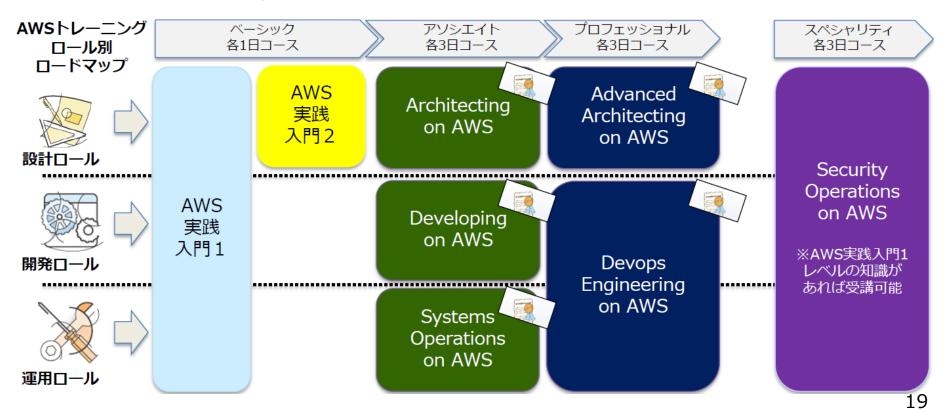
SIerに頼らず自分たちで検討・構築を進めてきたAWS推進ですが、 活用が広がる事で管理・運用面の課題が見えつつあることと、 今後も今の流れでで利用拡大させて問題にならないのかという不安が出てきました。

イベントでの事例研究やWebサイトの情報収集も引き続き行いましたが 私たちはまだまだ知らない活用方法などを知る必要があると考え AWSのトレーニングとして『アソシエイトレベル』の3つの講座を受講しました。

- ✓ Architecting on AWS
- ✓ Developing on AWS
- ✓ Systems Operation on AWS

#### 

※AWS Webサイトより引用



#### ❖ 現在のクラウド利用状況

結果、現在はほとんどのシステムはクラウドサービス上で稼働し オンプレミスでサーバを導入する事ケースはほとんどなく まずクラウドありきでシステムを構成する事となりました。

※どうしても止められない仕組みやレガシーな接続を求められるものは引き続きオンプレミス

システム構築の際には まずクラウドでの構築を考える

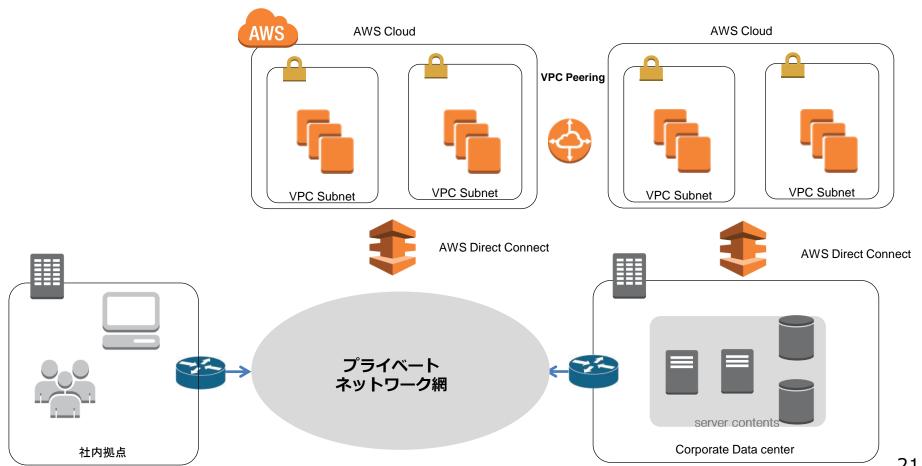




物理的な制約があるなどの場合はオンプレミスを選択。



### 千趣会システム環境図



21

### 孝 クラウドを使う中での経験談

クラウドを活用する中で経験したいくつかのエピソードを振り返りたいと思います。

#### エピソード① 【システム構築のスピード化】

ハードウェアを自前で持つオンプレミスの時と大きく変わったはシステム構築のスピードです。

システムを導入する際にオンプレミスの場合はサーバの調達だけでなく、

「設置場所の確保」

「電源の確保」

「熱源の考慮」

「ネットワーク機器の準備」

「サーバの設置」

これらの要素も検討し準備する事が必要になりますが、クラウドサービスの場合だと クラウドベンダーがこれらの環境を準備している為に、ユーザー側は特に意識する事がありません。

#### ◆ クラウドを使う中での経験談

#### エピソード② 【設計の効率化】

リソース確保までのスピードが速い事と、システムの利用状況に応じて拡張性が高い事はシステム設計の効率化に大きく影響しました。

必要なリソースがどの程度なのかをプランニングしてもリソースが足りなくなる事もありましたがクラウドサービスの場合はスケールアップが容易である為にスモールスタートが可能です。

また、性能・信頼性向上の為にスケールアウトを行う事も可能ですので 後から変更する前提で必要な性能に見合った構成を設計する事が可能です。

### ◆ クラウドを使う中での経験談

#### エピソード③ 【クラウドでも障害はある】

クラウドサービスを利用する事はメリットばかりではなく、裏ではオンプレミスの時と同じく 物理的な制約があるので、頻度はそれほど高くないものの、ハードウェアに起因する 障害は発生します。

クラウドサービスの利用においてハードウェアの存在をユーザー側が意識する事は 少ないのですが、いざ障害が発生するとオンプレミスの時よりも原因追及が難しいという 実感はあります。

障害発生時には、「原因追及よりもサービス復旧を優先させる」といったクラウドならではのポリシーを持った対応が必要になります。

◆ クラウドを使う中での経験談

エピソード④ 【クラウドでもメンテナンスはある】

障害があるのと同様に、メンテナンスによるサービス断もまれに発生します。 回線サービスの利用で発生する回線借用のようなイメージで、事前にアナウンスはありますが クラウドベンダー側で決めた時間にメンテナンスが行われる事はあります。

メンテナンスの頻度は多くないものの、オンプレミスの時のような個別調整は出来ない為に サービス時間が決められているものは、あらかじめ冗長構成を取るなどの対策が必要になります。

孝 クラウドを使う中での経験談

エピソード⑤ 【一定のコストはかかる】

障害やメンテナンスによるサービス断をどれだけ許容できるのかという点については 自社において個々の事情はあると思いますが、クラウドサービスの利用範囲を広げると クラウドサービス内での冗長構成や、接続回線の冗長構成を採用するなど 信頼性確保の為に対策を検討する事になります。

結果、クラウドサービスとしては安価であっても信頼性確保の為にかかるコストが 別途発生して全体のコストを押し上げる事にもつながります。

一定のコストはかかっても、それが適切であるのかどうかを図る意味でも RTO(目標復旧時間)やRPO(目標復旧時点)の観点は社内で議論し コストについての取り決めを行う必要があります。

### 本日のアジェンダ

- 1. 会社概要
- 2. クラウドジャーニー
- 3. 今後のクラウド活用

### 今後のクラウド活用

#### ◆ 自社メンバーの更なるレベルアップを

AWSのように新しい機能がどんどん追加されていくクラウドサービスについては 気になったものは『自分たちで使って試す』というのが上手い付き合い方だと思っています。

スピードの速いクラウドの世界の中で、あえて自分たちで学び経験するという事を 今後も続けていこうと考えていますが、さらなるレベルアップを計画しています。

- ①AWS 認定ソリューションアーキテクト アソシエイト試験へのチャレンジ
- ②Advanced Architecting on AWS 研修の受講
- ③AWS 認定ソリューションアーキテクト プロフェッショナル試験へのチャレンジ

### 今後のクラウド活用

#### ◆標準化と自動化

これまでお話した内容はサーバ基盤としての活用事例が主でした。

今後はその活用の幅を広げて「標準化」した環境を「自動化」して展開する事を検討・計画しており、クラウドネイティブサービスの積極活用を模索しております。

#### <目指す方向性>

- ・標準的なサーバ構築の自動化
- ・システムリリースの自動化と拡張性の確保

- ・アプリケーションの自動デプロイ
- ・バージョン問題からの解放

#### く目的とする効果>

- ・運用自動化と管理工数削減
- ・アプリケーション公開のスピードアップ
- ・システムコストの最適化

### 終わりに

パブリック・プライベートと両方のクラウドサービスを利用した感想として、 クラウドベンダーとの関係性がかなり重要であるという事です。

- ・障害があった場合にどこまでベンダーを巻き込めるか
- ・ユーザーの希望する情報提供が行われるのかどうか
- ・ベンダーの担当者が身近な存在であるのか

#### ✓ IT部門内での変化

AWSを積極的に使う事で部門内のメンバーにも変化が見られるようになりました。

- ・検証環境の調達が容易になり対応が効率化
- ・使った分だけ課金される事が浸透する事でインフラコスト意識が再認識

### 終わりに

AWSを活用する事をこれから検討されている方、もっと活用しようと考えている方へ 弊社からのアドバイスとしては5点あります。

- ①AWSはスモールスタートが出来るのでとにかく使ってみる
- ②トライアルの中でサポートのレベルを確認しておく
- ③有償サポートはなるべく契約して活用する
- ④障害は起きるものと思っておく。RTO、RPOなどの議論もあらかじめ必要
- ⑤新しいサービスがどんどん追加されるのでAWSの担当者とは仲良くする

#### ウーマン スマイル カンパニー

# senshukai

ご清聴ありがとうございました。